



かけはし

第6号

平成29年10月1日

ふるさと智恵文に誇りをもつ輝く智小っ子を「地域ぐるみ」で育てましょう

学習効果をより上げるために

校長 川崎直人

10月に入り、山々の紅葉も美しい時期となりました。秋といえば「読書の秋」「食欲の秋」「スポーツの秋」「学習の秋」などいろいろ言われていますが、何をすることも適した気候ということでしょう。



さて、本校では学校で学んだ基礎的・基本的な学習をしっかり定着されるため、「宿題」はとても大切なものであると考えています。そこで全学級で毎日宿題を出してあります。宿題を含めた家庭学習習慣を身に付けさせるため、年度当初「小中一貫家庭学習の手引き」を配布しています。今年度も半分がおわり、後半に入りますが「家庭学習」についてももう一度確認が必要であると考えています。

さて、家庭学習に取り組む際の大事な要素として、環境（時間、場所、大人）があります。時間はできれば夕食前に終わらせることが望ましいですが、習い事なども考え、各ご家庭で時間を決めておくことがよいのではないのでしょうか。

場所は、どこで学習するのがよいということは一概には言えません。親の目の届く場所、静かで集中できる所といった条件を考慮したうえで、場所を決めて行うことが家庭学習の習慣化には大切だと考えます。

また、学習でわからないことが必ず出てきます。宿題のやり方や家庭学習のやり方がまだ身に付いていない低学年には、特に積極的に大人がかかわってあげる必要があります。丁寧にかかわればかかわるほど子供は伸びます。

テレビの存在は学年が上がるにつれて、いつも消して学習している子供の割合が少ない傾向にあります。集中して学習に取り組むには、テレビを消して落ち着いた静かな環境でさせてあげてください。



学校の環境も、子供が安心して落ち着いた環境のもとで学習できるよう心がけてまいります。ご協力いただきますようお願いいたします。